

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 一校 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

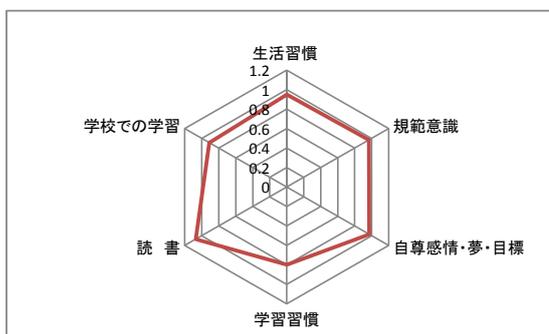
国語A	全体的な傾向や特徴など	・読むことや伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に比べ、話すこと・聞くことに関する問題では正答率が高かった。 ・平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読みだすことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、収集した情報を関連付けて解く問題はよくできていた。	
	努力が必要な問題	表と図を関連付けたり叙述を基に読みとったりする問題に課題が見られる。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国正答率を上回っており、文章や図を関連付けて読み取ったり、整理して表現したりすることができた。 ・記述による解答に対して、簡潔な文章で表現する力が高まった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	グラフを基に、分かったことや自分の考えを書く問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	本や文章を比べて読むなどの、効果的な読み方を工夫する問題に課題が見られた。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・領域別で見ると、「量と測定」の領域の平均正答率が高く、「数と計算」「数量関係」の領域の平均正答率はやや低い。 ・正しく計算する力や基礎的・基本的な内容の定着を図るために、繰り返し学習する場を多く設定する。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数の大小関係や単位量当たりの大きさの求め方に関しては、よく理解できている。	
	努力が必要な問題	三角形の底辺と高さの関係について理解しているかを問う問題での正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・考えを説明するために記述したり、式の中の数値を解釈して記述したりすることができていた。 ・数学的な考え方が必要な問題での、正答率が高かった。今後も、基礎的な知識を活用して、多様な見方や考え方ができるようにしていく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された事柄が正しくないことや、式の数値の意味を記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	場面を式に表したり、式の意味を具体的な事象と関連付けて解いたりする問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・毎日宿題をする児童は約9割を超えるが、平日に家庭学習を1時間以上しているとした児童は約半数である。また、家で計画を立てて勉強することは、約半数の児童ができていない。学習内容は宿題やそれに伴う復習が中心で、自ら計画したり、次の学習に興味をもって予習したりする児童は多くない。今後は、家庭での学習習慣を含め、家庭学習の内容の充実に取り組む必要がある。
・児童の読書量は全国平均を大きく上回った。今後も、毎週実施している「朝の読書活動」や学校図書館の充実、読み聞かせボランティアの活用を取組を継続し、読書好きの児童の育成に取り組んでいく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○「朝の活動」時間の徹底 月曜日…音読 水曜日…計算 木曜日…読書・読み聞かせ(一斉自由読書 教師も一緒に)</li> <li>○子ども自らが主体となって学習し、思考力・表現力・判断力を育てる学習活動に努める。</li> <li>・書く活動が位置付いた授業 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を書く学習の位置付け ・児童が「考える」「書く」「発表する」授業への改善</li> <li>・学習ノートの改善 … 何をめあてとして どう考え 何が分かったか等、子どもたちの学びが見えるもの</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭での学習習慣の定着と学習内容の確実な定着を目指す(学習の基盤づくり)</li> <li>・「一校小家庭学習の手引き」や「家庭学習チャレンジHB」を活用し、宿題に自分で考えた課題を加えた家庭学習を自分で計画し実行する。</li> <li>・自主学習ノートの活用 ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題や活用力を高めるワークを活用</li> <li>○家庭生活習慣等に関する取組について保護者・地域との連携の強化 ・生活の見直しの啓発活動を学校だよりや保護者会等で行う。</li> </ul>
--